



ブリアストンサイクル株式会社(本社・埼玉県上尾市)に自転車をお借りして大学案内の撮影をしました。  
「自転車のまちあげお」を将来都市ビジョンに掲げる上尾市に本学もブリアストンサイクル株式会社本社もあり、市のイベント等で協力をしています。

## Chapter 3 キャンパスライフ

キリスト教の大学ですので入学式から卒業式まで、またイースター礼拝やクリスマス点火式などキャンパスで行われるイベントがミッションスクールの雰囲気にあふれています。サークル活動も盛んで、全国的に活躍している部も多くあります。学生総数約2,300名という規模ですので、学生と教職員、学生一人ひとりが大変フレンドリーで、うれしいことがあれば共に喜び、困ったことがあれば助け合うという気風にあふれたキャンパスです。埼玉県の中心部大宮駅から一駅という交通の便に恵まれたところがありますが、キャンパスは緑にあふれ、四季の変化を豊かに感じることもできるのも特色です。

# 在学者数

学部学生数 (2014年5月1日現在)

## 政治経済学部

学科名	政治経済学科			コミュニティ政策学科			総計
	定員	現員	内女子数	定員	現員	内女子数	
1年	160	119	22	—	—	—	119
2年	100	98	12	80	69	17	167
3年	100	93	13	100	66	15	159
4年	100	118	20	100	106	26	224
合計	460	428	67	280	241	58	669

## 人文学部

学科名	欧米文化学科			日本文化学科			総計
	定員	現員	内女子数	定員	現員	内女子数	
1年	80	55	32	80	89	48	144
2年	80	50	25	80	85	29	135
3年	80	71	28	80	86	37	157
4年	100	96	46	100	113	37	209
合計	340	272	131	340	373	151	645

## 人間福祉学部

学科名	児童学科			こども心理学科			人間福祉学科			総計
	定員	現員	内女子数	定員	現員	内女子数	定員	現員	内女子数	
1年	100	102	59	80	66	32	80	83	35	251
2年	100	107	66	80	57	41	80	74	31	238
3年	100	105	63	80	63	28	80	76	35	244
4年	100	116	74	—	—	—	100	110	40	226
合計	400	430	262	240	186	101	340	343	141	959

## 学生数総計

合計	2,273 (内女子数 911)
----	------------------

## 国籍別留学生数(2014年度)

※学部生のみ

国籍	男子	女子	合計
中国	89	89	178
韓国	6	5	11
台湾	1	1	2
ネパール	3	1	4
ベトナム	2	5	7
マレーシア	1	1	2
スリランカ	1	0	1
ミャンマー	0	1	1
イラン	0	1	1
タイ	1	1	2
ペナン	0	1	1
セネガル	0	1	1
合計	104	107	211

## 学科・学年別留学生数(2014年度)

※学部生のみ

学科名	政治経済	コミュニティ政策	欧米文化	日本文化	児童	こども心理	人間福祉	計
1年	29	—	8	3	0	3	3	46
2年	16	15	5	4	0	5	2	47
3年	17	16	7	6	0	4	3	53
4年	17	18	12	9	0	—	9	65
合計	79	49	32	22	0	12	17	211

## 学生の退学(除籍含む)状況について(学部)

### ■4年間の退学(除籍含む)状況

2010年4月に入学した学生数 691人  
 そのうち2014年3月に卒業した学生数 501人  
 そのうち2014年3月までに退学(除籍を含む)した学生数 132人

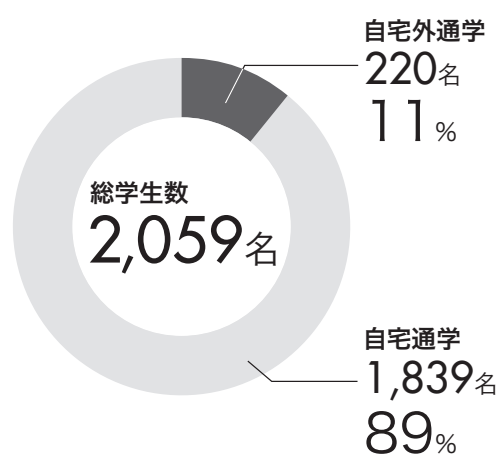
### ■1年間の退学(除籍含む)状況

2013年4月に入学した学生数 555人  
 そのうち2014年3月までに退学(除籍を含む)した学生数 20人

# 通学状況

(2014年5月1日現在)

## 自宅・自宅外通学の割合



## 通学地域

都道府県	市町村	自宅通学	自宅外通学	合計	
茨城県	古河市	15	0	15	
	結城市	6	0	6	
	猿島郡	4	0	4	
	筑西市	3	0	3	
	牛久市	2	0	2	
	つくば市	2	0	2	
	坂東市	2	0	2	
	稲敷市	1	0	1	
	土浦市	1	0	1	
	取手市	1	0	1	
	下妻市	1	0	1	
笠間市	1	0	1		
<b>小計</b>		<b>39</b>	<b>0</b>	<b>39</b>	
栃木県	宇都宮	6	1	7	
	小山市	5	0	5	
	足利市	4	0	4	
	下都賀郡	4	0	4	
	栃木市	3	0	3	
	佐野市	2	0	2	
	下野市	2	0	2	
	那須塩原市	2	0	2	
	日光市	1	0	1	
	<b>小計</b>		<b>29</b>	<b>1</b>	<b>30</b>
群馬県	高崎市	13	0	13	
	前橋市	8	0	8	
	邑楽郡	7	0	7	
	太田市	5	0	5	
	伊勢崎市	4	0	4	
	渋川市	4	0	4	
	佐渡郡	3	0	3	
	館林市	3	0	3	
	安中市	2	0	2	
	藤岡市	1	0	1	
	桐生市	1	0	1	
	沼田市	1	0	1	
	群馬郡	0	1	1	
	<b>小計</b>		<b>52</b>	<b>1</b>	<b>53</b>
	埼玉県	さいたま市北区	60	90	150
上尾市		78	29	107	
川口市		92	1	93	
さいたま市西区		31	33	64	
川越市		44	13	57	
さいたま市見沼区		45	2	47	
さいたま市浦和区		42	3	45	
春日部市		44	0	44	

都道府県	市町村	自宅通学	自宅外通学	合計
埼玉県	鴻巣市	42	2	44
	越谷市	41	1	42
	熊谷市	38	0	38
	深谷市	38	0	38
	久喜市	36	1	37
	桶川市	34	1	35
	さいたま市大宮区	31	4	35
	さいたま市南区	24	5	29
	さいたま市緑区	27	1	28
	さいたま市桜区	27	0	27
	北本市	26	1	27
	加須市	26	0	26
	さいたま市岩槻区	25	0	25
	さいたま市中央区	23	1	24
	草加市	23	0	23
所沢市	22	0	22	
行田市	22	0	22	
比企郡	21	0	21	
坂戸市	21	0	21	
狭山市	21	0	21	
東松山市	20	0	20	
戸田市	18	0	18	
蓮田市	17	0	17	
白岡市	16	0	16	
朝霞市	14	0	14	
新座市	14	0	14	
入間市	13	0	13	
本庄市	13	0	13	
羽生市	12	0	12	
ふじみ野市	11	0	11	
吉川市	10	0	10	
北葛飾郡	10	0	10	
南埼玉郡	10	0	10	
蕨市	9	1	10	
富士見市	9	1	10	
志木市	9	0	9	
児玉郡	9	0	9	
入間郡	8	1	9	
日高市	8	0	8	
北足立郡	8	0	8	
八潮市	6	0	6	
三郷市	6	0	6	
和光市	6	0	6	
飯能市	6	0	6	
大里郡	6	0	6	

## 自宅外通学者の出身県

都道府県名	人数	都道府県名	人数	都道府県名	人数
新潟県	41	北海道	4	熊本県	2
福島県	22	静岡県	4	福井県	1
宮城県	20	青森県	3	岐阜県	1
群馬県	15	神奈川県	3	大阪府	1
埼玉県	15	愛知県	3	島根県	1
東京都	13	沖縄県	3	岡山県	1
長野県	13	秋田県	2	宮崎県	1
山形県	12	富山県	2	鹿児島県	1
茨城県	11	山梨県	2	大分県	1
栃木県	6	広島県	2	<b>合計</b>	<b>220</b>
岩手県	5	山口県	2		
千葉県	5	長崎県	2		

都道府県	市町村	自宅通学	自宅外通学	合計	
埼玉県	幸手市	5	0	5	
	鶴ヶ島市	5	0	5	
	秩父市	2	0	2	
	秩父郡	2	0	2	
	<b>小計</b>		<b>1,286</b>	<b>191</b>	<b>1,477</b>
千葉県	野田市	12	1	13	
	柏市	10	0	10	
	松戸市	5	0	5	
	流山市	3	0	3	
	市川市	3	0	3	
	船橋市	2	0	2	
	習志野市	2	0	2	
	八千代市	2	0	2	
	浦安市	2	0	2	
	千葉市	1	0	1	
	我孫子市	1	0	1	
	<b>小計</b>		<b>43</b>	<b>1</b>	<b>44</b>
	東京都	北区	38	3	41
		板橋区	35	2	37
		足立区	25	1	26
練馬区		24	0	24	
江戸川区		16	1	17	
世田谷区		15	0	15	
杉並区		12	0	12	
葛飾区		11	1	12	
大田区		10	0	10	
豊島区		10	0	10	
荒川区		9	1	10	
青梅市		9	0	9	
清瀬市		8	1	9	
品川区		8	1	9	
小平市		8	0	8	
新宿区	8	0	8		
台東区	8	0	8		
江東区	6	1	7		
墨田区	6	1	7		
中野区	6	1	7		
東村山市	5	1	6		
西東京市	5	0	5		
東久留米市	5	0	5		
昭島市	4	0	4		
渋谷区	4	0	4		
日野市	4	0	4		
文京区	4	0	4		
港区	4	0	4		

都道府県	市町村	自宅通学	自宅外通学	合計
東京都	八王子市	3	1	4
	国立市	3	0	3
	国分寺市	3	0	3
	調布市	3	0	3
	東大和市	3	0	3
	府中市	3	0	3
	武蔵野市	3	0	3
	目黒区	3	0	3
	あきる野市	2	0	2
	中央区	2	0	2
	千代田区	2	0	2
	福生市	2	0	2
	町田市	2	0	2
	三鷹市	2	0	2
	稲城市	1	0	1
立川市	1	0	1	
多摩市	1	0	1	
西多摩郡	1	0	1	
羽村市	1	0	1	
<b>小計</b>		<b>348</b>	<b>16</b>	<b>364</b>
神奈川県	横浜市	19	0	19
	川崎市	17	2	19
	相模原市	3	0	3
	三浦市	1	0	1
	小田原市	1	0	1
座間市	1	0	1	
<b>小計</b>		<b>42</b>	<b>2</b>	<b>44</b>

施設  
学生相談室  
課外活動室  
学費  
奨学金

※学生の本人住所と保護者住所の一致の状況から算出。但し、留学生を除く。

# 施設

## 施設・設備について

校地・校舎面積等	(㎡)
校舎・講堂・体育施設敷地	34,072
屋外運動場敷地	26,241
その他	1,428
<b>計</b>	<b>61,745</b>

建物の用途別面積	(㎡)
講義室・演習室	5,728
実験室・実習室	1,490
研究室	3,238
図書館	1,762
管理関係・その他	12,783
講堂(チャペル)	2,346
体育施設	1,081
<b>計</b>	<b>28,428</b>

食堂座席数	(座席数)
1号館学生ホール	394
4号館1階食堂	258
エルビス館1階食堂	190
エルビス館2階インターネットカフェ	63
エルビス館2階エルビスホール	68
エルビス館2階特別食堂	20
<b>計</b>	<b>993</b>

ピアノ・オルガン台数	(台)
グランドピアノ	4
ピアノ	27
エレクトーンピアノ	6
電子ピアノ	23
オルガン	3
<b>計</b>	<b>63</b>

## 備蓄倉庫

聖学院大学は災害時における上尾市の防災拠点校となっており、上尾市役所から配給された備蓄品を倉庫に設置しています。

## ラーニングコモンズ

自主的学習、グループ学習などを支援する総合的学習スペース

利用者数 (2013年5月～2014年2月)

	(人)
授業外利用	1,970
授業利用	312
<b>計</b>	<b>2,282</b>

## PC利用環境

場所	備え付けPC
1号館	ノートPC52台
2号館	ノートPC120台
4号館	デスクトップPC82台
キャリアサポートセンター	デスクトップPC3台
総合図書館	デスクトップPC40台・ノートPC20台
インターネットカフェ	デスクトップPC6台

## 図書館利用状況 (2014年3月31日現在)

### 蔵書冊数

年度	2013			2012	2011
	和書	洋書	小計		
<b>合計</b>	234,581	65,242	299,823	297,236	293,466

全国大学平均(2012年3月) 231,900  
(平均は図書館年鑑2013より)

### その他の資料

和雑誌	421
洋雑誌	121
スライド	34
マイクロ資料	18,825
カセットテープ	1,059
ビデオ・LD・DVD	3,095
CD	1,264
CD-ROM	778

### 入館者統計

年度	2013	2012	2011 <sup>※</sup>
開館日数	279	283	275
入館者数	134,992	143,664	143,428

※震災のため制限付開館を行った日がありました。

### 館外貸出冊数

分類	全体(教職員・一般含む)			院生・学生・履修生のみ		
	2013	2012	2011	2013	2012	2011
<b>合計</b>	19,392	21,260	21,187	14,631	16,451	16,657

全国大学平均(2012年3月) 23,200  
(平均は図書館年鑑2013より)

## アクティブラーニング・スペース

図書館では、2014年2月にアクティブラーニング・スペース(ALS)が整備されました。ALSは、4つのグループ閲覧室から成り、各部屋にホワイトボード、電子黒板機能を備えたプロジェクター、可動式の椅子と机が設置されています。図書館は原則として静かにしなくてはいけない場所ですが、ALSではディスカッションが認められていますので、ゼミの授業や学生同士のグループ学習などに活用することが出来ます。また、iPadを使用した双方向授業支援システムも導入されました。大学教育の質的転換が求められている今、図書館は「能動的な学修・アクティブラーニング」を支える施設として、大きく生まれ変わろうとしています。

## 聖学院学術情報発信システムSERVE利用状況(2011～2013年度)

聖学院学術情報発信システム SERVE (Seigakuin Repository for academic archiVE)は、聖学院の研究および教育の成果を収集・蓄積・保存するとともに、Web上で世界に向けて情報を発信するシステムです。このような学術研究成果発信のシステムは「機関リポジトリ」といわれ、世界中で多くの大学や研究機関が構築、提供しています。SERVE もこの機関リポジトリの一つです。また、聖学院の電子的情報の散逸を防ぎ、情報の組織的保存(アーカイブ)を目指すものです。

<http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/>

年度	2013	2012	2011
登録件数	258	512	788
閲覧件数	390,647	294,177	321,438
DL件数	217,860	30,798	119,347

※閲覧件数とは、各紹介ページ(書誌)へアクセスした件数  
※DL件数とは、添付されている本文データを開いた件数

### 開館時間(参考)

曜日	月～金	土
授業開講期間中	8:45～21:30	8:45～17:00
その他期間	9:00～17:00	9:00～15:00

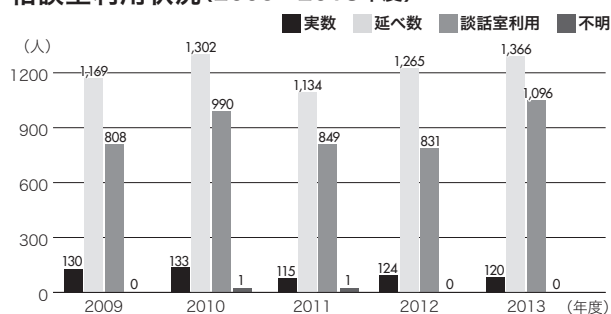
休館日
日曜・祝日、クリスマス、年末年始の定める日、入試日、蔵書点検期間(年1回)等

# 学生相談室

学生相談室は、大学生活を送る中で悩みや問題が生じたり、自分についてもっと考えたいと思うときに、その解決のお手伝いをするところです。心理的な相談だけでなく、思いがけないトラブルに遭遇してしまったり、聞きたいことがあるけれども誰に聞いたらよいかわからない時など、学生が気軽に相談できる窓口となっています。臨床心理士によるカウンセリングの他、静かに過ごしたい、ゆっくり考え事がしたいという方のための談話室を運営し、学生相談室便りを年に数回発行して心の健康の啓蒙活動も行っています。

開室時間 月～金 10:30-17:30

## 相談室利用状況(2009～2013年度)



## 担当教員



室長 こども心理学科教授  
山田 麻有美



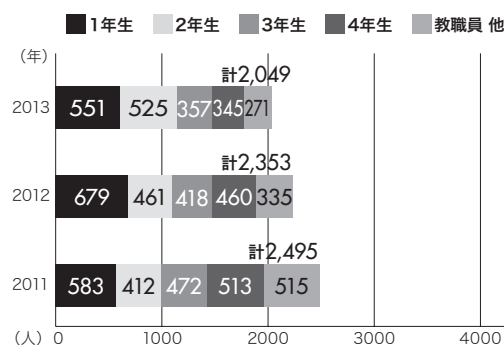
副室長 こども心理学科准教授  
竹刈 香織

# 保健室

保健室では、けがや病気の応急処置の他に、健康関連の図書の見覧や、アルコールパッチテスト、肥満指導も実施しています。授業期間中、毎週水曜日14:00～15:00の間、学校医による診察や健康相談日も設けています。また、それ以外の日でも看護師による対症療法やアドバイス等も行っていきます。

開室時間 月～金 9:30-17:30 土 9:30-16:00

## 学年別来室者数(2011～2013年度)



# 課外活動

## クラブ・サークル一覧

分類名	団体名	所属人数	
委員会・連合	学友会総務委員会	105	
	学友会文化会連合	20	
	学友会体育会連合	12	
	学友会特別委員会連合	8	
	ヴェリタス祭実行委員会	74	
	卒業関連事業準備委員会	6	
演劇部	演劇部	27	
	軽音楽部サウンドスクエア	62	
	茶道部 表千家	34	
	写真部	5	
	文化会	法学研究会	13
	イラスト芸部	50	
放送部	放送部	13	
	アカペラ部～てくてく～	23	
	東南アジアボランティア部Rung	6	
	児童文化研究会てふてふ	9	
	手話同好会	3	
	文化同好会	猫文化同好会	10
国際交流同好会	国際交流同好会 まのと	19	
	漫画研究同好会	7	
	政治学研究会	20	
	美術同好会	5	
	剣道部	4	
	硬式庭球部	硬式庭球部	17
サッカー部		32	
体育会		スキー部 ALPINA	11
軟式野球部		14	
男子バスケットボール部		26	
バドミントン部		29	
陸上競技部	陸上競技部	44	
	バレーボール部	9	
	ソフトテニス同好会	25	
	ソフトボール同好会 久米	10	
	バスケットボール同好会 GRIP	29	
	バレーボール同好会 We are NO.1	34	
ダンス同好会	ダンス同好会 CRUSH	35	
	卓球同好会	13	
	フットサル同好会	18	
	サッカー同好会 kacy's	33	
	ハンドボール同好会	7	
	特別委員会	聖学院大学クリスチャン・フェロローシップ	18
聖学院大学フィルハーモニー管弦楽団		24	
聖学院大学聖歌隊		7	
聖学院大学ハンドベル・クワイア		15	
聖学院大学ボランティア・アソシエーション		25	

2014年3月現在

## 在学中のアルバイト時間

学期中、アルバイトとして週何時間くらい働いていましたか。(2013年度卒業生アンケート) 回答者数(405)、回収率77%

内容	回答数	割合
15時間以上	116名	29%
10時間以上15時間未満	80名	20%
5時間以上10時間未満	70名	17%
5時間以内	31名	8%
ほとんどしなかった	60名	15%

# 学費

## 学部 授業料等納入金(2014年度)

学部	学年	学期	入学金	授業料	教育 拡充費	施設費	後援会 入会金	後援会費	学友会費	学会費	卒業関連 事業費	同窓会費	学研災 ガウン代	合計	年間合計	
政治経済 欧米文化	1年次	春	280,000	355,000	30,000	120,000	50,000	24,000	10,000	—	—	—	6,300	875,300	1,350,300	
		秋	—	355,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	475,000		
	2年次	春	—	365,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	—	—	—	529,000	1,014,000	
		秋	—	365,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	485,000		
	3年次	春	—	375,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	—	—	—	539,000	1,034,000	
		秋	—	375,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	495,000		
	4年次	春	—	385,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	—	24,000	20,000	593,000	1,098,000	
		秋	—	385,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	505,000		
	合計			280,000	2,960,000	60,000	960,000	50,000	96,000	40,000	—	24,000	20,000	6,300	4,496,300	4,496,300
	日本文化	1年次	春	280,000	355,000	30,000	120,000	50,000	24,000	10,000	2,000	—	—	6,300	877,300	1,352,300
			秋	—	355,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	475,000	
		2年次	春	—	365,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	2,000	—	—	—	531,000	1,016,000
秋			—	365,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	485,000		
3年次		春	—	375,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	2,000	—	—	—	541,000	1,036,000	
		秋	—	375,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	495,000		
4年次		春	—	385,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	2,000	—	24,000	20,000	595,000	1,100,000	
		秋	—	385,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	505,000		
合計			280,000	2,960,000	60,000	960,000	50,000	96,000	40,000	8,000	24,000	20,000	6,300	4,504,300	4,504,300	
児童 こども心理 人間福祉		1年次	春	280,000	380,000	30,000	120,000	50,000	24,000	10,000	—	—	—	6,300	900,300	1,400,300
			秋	—	380,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	500,000	
		2年次	春	—	390,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	—	—	—	554,000	1,064,000
	秋		—	390,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	510,000		
	3年次	春	—	400,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	—	—	—	564,000	1,084,000	
		秋	—	400,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	520,000		
	4年次	春	—	410,000	10,000	120,000	—	24,000	10,000	—	—	24,000	20,000	618,000	1,148,000	
		秋	—	410,000	—	120,000	—	—	—	—	—	—	—	530,000		
	合計			280,000	3,160,000	60,000	960,000	50,000	96,000	40,000	—	24,000	20,000	6,300	4,696,300	4,696,300

### (納入方法・その他の費用)

本学の学費等の納入時期は、春学期と秋学期の年2回納入となっています。

教育拡充費は、新入生オリエンテーションおよび教育用コンピューター維持に係る費用です。

教職課程などを履修する場合は、別途実習費用が必要となります。また児童学科、人間福祉学科で実習科目を履修する場合も実習費用が別途必要となります。

本学では、P検定資格を取得する「情報リテラシー」講座(必修科目)があり、受講費用は15,000円です。大学で講座を受講受験する方法、学外で受講受験する方法等があります。また、履修免除もあります。

## 大学院 授業料等納入金(2014年度)

学部	学年	学期	入学金	授業料	施設費	合計
博士 後期課程	1年	春	280,000	365,000	60,000	705,000
		秋	—	365,000	60,000	425,000
	2年	春	—	365,000	60,000	425,000
		秋	—	365,000	60,000	425,000
	3年	春	—	365,000	60,000	425,000
		秋	—	365,000	60,000	425,000

※修士課程は標準2年間、博士後期課程は標準3年間です。

※「長期履修制度」の利用希望者は、上記標準在籍年限(2年間)分の授業料を3年間または4年間で分割納入することになります。なお、分割納入できるのは授業料のみです。

※上記納入金のほか、入学時に保険料(修士課程、博士前期課程1,750円、博士後期課程2,600円)を納入していただきます。('長期履修制度'利用希望者の保険料については「長期履修制度募集要項」参照)

※上記納入金のほか、後援会年会費5,000円を納入していただきます。

※学内進学者について修士課程・博士前期課程は入学金半額、博士後期課程は入学金全額を除きます。

※アメリカ・ヨーロッパ文化学研究所博士前期課程シニアコースは、標準修業年限2年のところを3年、または4年まで延長することが可能です。この場合、原則として修業年限の延長に伴う新たな学費の負担はありません。

# 奨学金

## ルーラ・ロング・コームズ記念奨学金

減免について:年間授業料の30%を学納金より減免。減免期間は1年間。

対象:全学生(日本人)。主として家計を支えている人の昨年1年間の所得金額が700万円未満。

1年生は春学期、2~4年生は前年度学業成績GPA2.5以上。

募集期間:1年生9月上旬~10月上旬、2~4年生3月下旬~4月上旬

2013年度:51名 2012年度:11名 2011年度:23名 ※2012年度以前はラーニングサポート制度として1年生のみ対象

## 聖学院大学進学・修学支援制度

現在進行中の金融危機の影響で経済的な理由から大学進学をあきらめざるを得ない受験生を支援するために聖学院大学では2009年度一般入試で「緊急・経済支援特別入試」を実施いたしました。2014年度入学の受験生に対しても、自立修学を支援するものとして以下の通り支援計画を実施しました。2015年度入学の支援についても実施いたします。

### 2014年度入学時支援

#### A 学費月払い制度の適用

- ・申請書に基づく選考によって決定。
- ・申請者のうち高校在学中に「学生支援機構第一種」に予約、確定した者は、入学後支援機構から振り込まれる費用を月々自動振替によって学費にあてることとします。

#### B 入学金免除

- ・申請書に基づく選考によって決定。
- ・入試ごとの審査により計30名まで。

#### 採用人数

	年度	2014	2013	2012	2011
学費月払い制度の適用		22	22	27	12
入学金相当額給付		22	16	28	15

## 聖学院大学災害被災者修学支援奨学金(東日本大震災被災者・修学支援制度)

東日本大震災にあたって、このために大学進学の夢をあきらめないでほしいと考え、特別入試制度と緊急経済支援措置を設けて、2011年度・2012年度は入試D日程特別入試を実施しました。被災を受けられた方は被災の状況により、最大で入学金の免除と一年間の授業料の全額免除が受けられます。この緊急経済支援制度は、聖学院大学災害被災者修学支援奨学金になりました。2015年度でも同様の入学支援を行います。

### 1.対象

地震・風水害等の自然災害等により被災した学生

### 2.対象者

- (1) 家計支持者が死亡、又は家計支持者の居住する家屋が全壊もしくは全焼した者
- (2) 家計支持者が居住する家屋が半壊もしくは半焼した者
- (3) 家計支持者が居住する家屋が床上浸水した者
- (4) 家計支持者が居住する家屋が床下浸水または一部損壊した者
- (5) 災害にともない経済的に困窮した者。ただし学生本人の父母又はこれに代って家計を支えている者(主たる家計支持者一人)の収入金額が、下記a、bのいずれかである者
  - a. 給与所得者 700万円未満
  - b. 給与所得者以外 350万円未満

※この項目でいう収入金額とは、「給与所得者」にあつては源泉徴収票の支払金額(税込)とし、「給与所得者以外」にあつては確定申告書等の所得金額(税込)とする。

### 3.支援措置内容

選考の上、下記の措置を決定いたします。

- 対象者(1)については、入学金および当該年度授業料(春学期・秋学期)の全額を免除する。
- 対象者(2)については、入学金および当該年度授業料(春学期・秋学期)の50%を免除する。
- 対象者(3)については、入学金および当該年度授業料(春学期・秋学期)の25%を免除する。
- 対象者(4)については、入学金を免除する。
- 対象者(5)については、入学金および当該年度授業料(春学期・秋学期)の50%を免除する。

### 4.採用人数

2014年度: 新入生1名 2013年度: 新入生2名 2012年度: 新入生2名  
2011年度: 18名

(在学生11名/新入生7名)

## 奨学金利用者数

### 聖学院大学独自奨学金給付・貸与者数

年度	2013
チャールズ・エリアス・ガルスト奨学金	6
女子聖学院短期大学記念国際交流奨学金	16

年度	2012	2011	2010
聖学院大学後援会修学援助奨学金	0	2 春学期2(給付1) 秋学期0	5 春学期0 秋学期5(給付2)
第2奨学金(ニードスカラシップ) ※2013年度より廃止	4 春学期3 秋学期1	14 春学期7 秋学期7	26 春学期15 秋学期11

## 日本学生支援機構奨学金新規貸与者数

日本学生支援機構の奨学金は、学業に励む学生自身に貸与されるものです。したがって卒業後、学生自身が返還することになります。返還金は、後輩の奨学金として再び活用する仕組みになっています。

年度	2013	2012	2011	2010	2009
第一種奨学金	65	45	43	44	36
第二種免除	172	184	190	180	187

## 外部奨学金給付者数

現在聖学院で取り扱っている奨学金は、上記奨学金以外にも都道府県・民間育英団体などからの各種奨学金があります。募集期間はほとんどが4~5月に集中しています。これらの奨学金は、給付・貸与の別、奨学金、採用人数、金額など条件が各々異なり、採用人員が少数です。

年度	2013	2012	2011	2010	2009
ツツミ奨学財団奨学金	0	0	1	1	0

## 留学生授業料減免対象者数

※学部生のみ

年度	2013	2012	2011
単位規定(30%)	199	193	198
成績上位(30%)	36	46	70

## その他の主な修学支援制度(奨学金/教育ローン/自立支援)

- ・聖学院大学 学費サポートプラン
- ・みずほ銀行提携教育ローン
- ・授業料月払い制度
- ・キャンパス自立支援制度[生活サポート基金]

在学者数  
通学状況  
施設  
学生相談室  
課外活動  
学費  
奨学金

# ボランティア活動

聖学院大学では、東日本大震災の被災地の復興支援をきっかけに、2011年5月、復興支援ボランティアセンターが設置。2012年度には、ボランティア活動全体を支援するボランティア活動支援センターが設置され、復興支援だけでなく、地域支援活動にも広がりが出てきています。

## 1. 東日本大震災復興支援活動

### (1) 岩手県野田村・田野畑村への児童訪問ボランティア(2013年度)

聖学院大学の学生(主にこども心理学科生)が、東日本大震災被災地の児童保育施設を訪問し、子どもたちの傍らに寄り添い、子どもたちの表情や言葉から心情をくみ取りながら、子どもたちに接することを体験するサービスマーケティングを用いた体験学習プログラム。(2011年～)

回数	場所	日程	参加人数
8	野田保育所(野田村)、日向保育所(野田村)、田野畑村立若桐保育園、たのはた児童館	7月17日～20日	5
9	日向保育所(野田村)、田野畑村立若桐保育園、たのはた児童館	10月9日～12日	5
10	田野畑村立若桐保育園、たのはた児童館	12月12日～14日	4

### (2) 被災者親子への支援活動

こども心理学科・金谷京子、児童学科・坂本佳代子(共に教員)及び臨床発達心理士会により、以下のような支援を継続。(2011年～)  
 ・加須・所沢に避難している親子への支援 ・いわき市仮設での遊び広場開催 ・南相馬の専門職研修・保護者心理相談

### (3) 岩手県釜石市を主な拠点とした活動(2013年4月～2014年4月)

2011年12月より、岩手県釜石市にて復興支援活動に取り組んでいます。冬の「サンタブプロジェクト」、春の「桜プロジェクト」を中心に、活動を展開している。

日程	内容・場所	参加人数
4月19日～21日	さいたま市盆栽町「清香園」協力により盆栽桜約300鉢を現地の希望者への贈呈配布するボランティアスタディツアー「桜プロジェクト2」を実施	釜石市鶴住居地区ほか 学生30名、教職員8名
7月6日	「第2回障がい者るんチャリティフェスタ2013」にて復興支援ボランティアチーム【SAVE】が活動紹介を実施	川越西文化会館メルト SAVE 学生5名
8月17日	大学周辺の自治会にも呼び掛け、復興支援ボランティアチーム【SAVE】主催「防災講座」を実施	聖学院大学 学生7名、教職員4名、地域の方13名
9月6日～10日	公益社団法人助け合いジャパン主催「きっかけバス47」リーダー研修会に埼玉代表として学生1名が参加	岩手県、宮城県、福島県 学生1名
11月1・2日	ヴェリタス祭内「ボラフェス」にて復興支援ボランティアチーム【SAVE】が岩手県産の野菜等を使用したカレーを販売	ヴェリタス祭 売上31,750円 学生12名
11月27日 12月3日	女性コーラスグループ「グリーン」のクリスマスコンサート時に復興支援ボランティアチーム【SAVE】が釜石市での復興支援活動のための募金活動を行いました。 ※募金総額のうち半額はフィリピンで発生した台風被害への復興活動に寄付させていただきます	点火祭 82,022円、 所沢市民文化センター 55,485円 SAVE 学生2名
12月6日～8日	学生と教職員が手作りしたクリスマスブックマークを仮設住宅にお住いの方々に戸別配布するボランティアスタディツアー「サンタブプロジェクト3」を実施	鶴住居地区ほか 学生30名、教職員8名
3月1日～4日	公益社団法人助け合いジャパン主催「きっかけバス・埼玉」の活動への参加	岩手県、宮城県、福島県 運営側6名、参加10名、 (43名[13大学]参加)
3月26日 4月10・11日	復興支援ボランティアチーム【SAVE】が「桜プロジェクト」実施のための募金活動を実施	大宮駅東口 16,583円 SAVEほか、 学生のべ27名
4月18日～20日	さいたま市盆栽町「清香園」協力により盆栽桜約200鉢を現地の希望者へ贈呈配布するボランティアスタディツアー「桜プロジェクト3」を実施	鶴住居地区ほか 学生30名、教職員9名、 一般1名

## 2. 地域連携活動

2013年4月、地域連携・教育センターが開設し、以降、さいたま市、上尾市、春日部市、埼玉県、岩手県釜石市を中心に地域連携活動を積極的に展開しています。また、埼玉県内のボランティア活動に取り組む大学生のネットワーク組織「さいたま学生ボランティアネットワーク～わかたま～」の運営に、聖学院大学の学生も参加しています。

日程	内容・場所	参加人数
8月10日	上尾市社会福祉協議会主催「上尾ボランティアフェスティバル」に参加。ボランティア活動紹介を実施	上尾市コミュニティセンター 学生3名
9月27日	「上尾市と聖学院大学との連携に関する包括協定」締結	
10月6日	さいたま北商工協同組合主催「さいたまKI-TAまつり2013」に参加。福祉体験ブース(車椅子体験・ボランティアクイズ)や被災地各地の物品販売の実施	宮原駅西口 ロータリー 学生12名
11月1・2日	福祉施設やNPOと学生つながりの場として「ボラフェス」を実施	ヴェリタス祭内 ボランティア祭実行委員会15名、参加団体7団体
12月	宮原青年クラブ主催「みやはらホットイルミネーションIN北区」参加(点灯式参加および子どもたちへのお菓子プレゼント)	宮原東口公園 学生7名
1月29日	「釜石市と聖学院大学との連携に関する協定」締結	
3月14日	埼玉学生ボランティアネットワーク～わかたま～主催「WAKATAMA FESTIVAL」	日本薬科大学 運営側3名、参加5名 (45名[13大学]参加)
4月22日	「春日部市と聖学院大学との包括的連携協定」締結	

## 3. 学生サポートメンバー養成講座

学生と共につくる、育つセンターを目指し、2012年のセンター開設時から年1回、「聖学院大学のボランティア活動を盛り上げる」学生コーディネーター養成を目的とした講座を実施。これには、「埼玉学生ボランティアネットワーク～わかたま～」でつながった他大学の学生も参加しました。(6月～7月全6回、受講者23名)

### 「夏のボランティア体験プログラム」 紹介キャンペーン

主に、ボランティア初体験の学生たちが地域活動に参加する機会をつくりました。また、その体験をきっかけに、ボランティアを継続する学生が増えています。